

★ご挨拶

『ポケモンGO』がリリースされ、Twitterに迫る勢いで爆発的な人気を博しています。ユーザー層は、20代が最も多く次に30代が多いようですが、50代以上のユーザーも全体の約5%いることが驚きです。

また、マクドナルドに行くとポケモンがゲットできる、というコラボも話題を呼んでおり、その人気に拍車をかけていますが、個人的にはマーケティングが上手だな、と感じています。

マクドナルドという子供に人気のファーストフード店ですが、「もっと野菜を食べて欲しい」というような理由から、壁を作っている保護者の方もいらっしゃると思います。しかし、今回のポケモンGOとマクドナルドとのコラボは、そんな親世代の壁を壊したのでは、と思っています。

前述の通り、最も多いユーザー層が30代なのですが、ちょうどこの方々が小学生の時に初代ポケモンが発売されました。その方々からすると、子供から「ポケモンやりにマクドナルド行こうよ～」と言われると「仕方ないなあ」という心境にもなりますし、ポケモンを通して子供との共通の話題も生まれます。

その辺りを狙った今回のコラボですが、マクドナルド復活の大きな一手になることは間違いありません。今後、どのように展開するか楽しみです。

★あまり重要視されない環境・廃棄物担当者育成

企業における人材育成の重要性は広く認知されていることと思います。しかし、企業の環境・廃棄物担当者の育成においては、外部の研修に参加させるなどに留まってしまう、そこまで経営資源を割いている排出事業者は少ないのではないのでしょうか。排出事業者からすると、産業廃棄物とは基本的に負の資産であり、長期間保有していてもプラスの効果を生むことは限りなく少ないものです。また、製造業や建設業以外の業種から排出される産業廃棄物は基本的に少量であり、かつ排出の頻度も少ないことも理由の1つとして挙げられます。

そのため、排出事業者としては、出来るだけ労力を掛けずに効率よく廃棄物を処理したいと思うのは当然であり、そうすると、当然のごとく環境・廃棄物担当者の教育に割ける経営資源は少なくなる、というのが現状ではないかと思っています。



【今月のコラム】につきましては、文字数の都合上、中止とさせて頂いております。

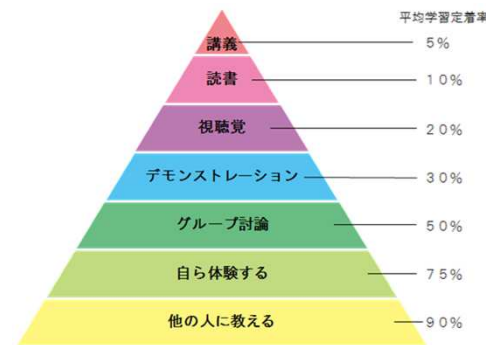
★環境・廃棄物担当者が育っていない場合のリスク

環境・廃棄物担当者が育成されていない場合、例えば以下のようなリスクがあります。

- ①ブランド失墜・情報漏えい
…不適正業者に産業廃棄物を委託してしまい、メーカー・ブランド名の入った商品を不法投棄されてしまう。個人情報が入ったままのパソコンを不法投棄されたり、断りも無く処理業者が使用してしまう。また、ネットオークションなどで転売されてしまうこともある。
- ②法令違反
…許可の無い業者に産業廃棄物を委託してしまったり、誤って産業廃棄物を一般廃棄物として処理してしまう。
- ③経済的損失
…「分ければ資源・混ぜればゴミ」と言われるように、廃棄物は分別すればするほど、経済的な価値が発生します。廃棄物の知識が無いと、分別しさえすれば有価物として売却できる廃棄物であったとしても、そのまま処理費用を払って排出してしまうことがあります。

★不適当な教育方法

環境・廃棄物担当者が育ち辛い要因として、教育方法の問題があると感じています。一般的に廃棄物の育成方法としては前述した外部研修や社内セミナーが多いと思いま



すが、いわゆる講義形式の研修では、理解度はわずか5%しか深まらないという研究結果があります。左図は「ラーニングピラミッド」という考え方で、一番理解度が深まる教育は“人に教える”であるとされていますが、本当にそうなのか、当社では疑問を感じています。皆様のお仕事を振返ればご理解頂けると思いますが、“実務を通して失敗し、それを乗り越えた”という経験が、一番人を成長させるのではないのでしょうか。そして、ここに環境・廃棄物担当者教育が上手く進まない原因があると考えています。廃棄物の世界で失敗とは、法律違反・罰金に直結するケースが多いため、簡単に経験できるものではありません。

環境・廃棄物担当者の育成をする際に、外部研修を利用することは間違っていないかもしれませんが、今後、研修先を選定する際は「実務を通じた失敗」を経験できる研修にご参加されることをお勧めいたします。

例えば、当社が実施している取引先向けの体験型研修では、取引先毎に現場や廃棄物の種類等をカスタムし、できる限り実際の現場に近い状況の中で実務に即した体験ができるように設計しておりますので、ぜひ一度営業担当者にお声掛け頂ければと思います。

発行：株式会社浜田
CSR担当 今井
TEL：072-686-3500